

復命書

2011年10月20日

新政会 代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2011年 10月 15日 (土)	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	東京都 麹町会館
	(2) 対 応 者	円より子 女性のための政治スクール 校長 増田 寛也 元岩手県知事 各地参加者
3 目 的	17期目を迎えた今回のテーマは。3月11日の震災を受けて、「質実国家をめざして」です。毎回タイムリーなテーマ、さまざまな講師の話が聞けて参考になる。これまでのエネルギー政策や日本人の生活様式の問題点、国の在り方などなど、今こそ、国難を乗り越えなければならない時。地方行政の在り方の見直しも含めて、経済、社会保障、雇用、税などの問題点を探る。この目的を達成すべく、参加する。	
4 内 容	<p>増田 寛也氏 東京大学・公共政策大学院・客員教授 「東日本大震災とこれからの日本」</p> <p>津波被害、原発事故、電力喪失、風評被害と、政府最大の危機を抱えた菅直人前首相。政府・自治体の危機管理はどうだったか。政府の未経験の原発事故の対応、対策本部の乱立、政治家と官僚の対立が政治不信を招いた。また、自治体は、戸籍、住民台帳、課税台帳、契約書類等の流失による市町村機能を完全喪失してし</p>	

	<p>まった。で、まさに戦争状態と同様の状況なのに、上意下達、書類主義が遅々として進まずの状況を造った。オン後の防災対策は、ハードソフト合わせて、減災に向けた取り組みが必要だ。また、釜石市に見られる、防災教育が必要だ。じゃー、復興に向けては何が大事なのか。絆、つながり、コミュニティーを重視する。世界に貢献する東北の復興が必要だ。世界にお返しする。民間資金の最大限の活用。政府の役割、自治体の役割、共同体の役割を再確認する必要がある。又克服すべき課題は何か。二重ローの問題、土地利用の問題、福島原発事故の収束、復興財源の確保、等々山積み。復興庁の現場での創設を提案（縦割りの克服）日本の再生ビジョンが必要だと結んだ。また、震災と地方議会もあり方も気になることだとも付け加えた。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>前知事の地方への思いはかなり強いものがある。順序良く、現状分析をし、今後の防災対策を見据え、復興に向けての視点を定め、克服すべき課題に対応し、優先順位を付けて最優先でとり組むべき事に当たる。このことが、緊急時はできないことが分かった。でも、釜石の中学生の行動は、訓練の賜物だ。日常の平時の訓練の真剣さが命を守るのだと教えてくれている。で、この地域は、地震地域で、何処の地域よりも常に訓練し、地震に備えていると他の地域の人たちは思っている。本当にそうかどうか、検証すべきだ。首長のリーダーシップが命を救うこともある。即決する力が必要だ。自助・共助努力を超えての大局の公助が必要だ。土地利用の強制などはかなり難しい。この際の、首長の、首相の、ビジョンが欲しいと思った。震災時の議員の無力を言われたが、これも常日頃のコミュニケーションが必要だ。いつ起こるか分からない地震。まずは、自分のできる事の確認からスタートする。</p>